

保幼小中一貫教育だより ～豊かな自然と豊かな人材で豊かなこどもを育てる～



豊能の風

発行：豊能町教育委員会 第101号 R5. 9. 22

第16回 ふれあいのつどい 4年ぶりの開催(9月9日) ～福祉まつり・笑顔で暮らせるまち～ ～吉中校区フェスティバル・キラキラ元気な子どもたち～

“地域の大人が地域の子どもを育てる”の大切さを共感し、福祉と教育への理解と関心を深めることを目的に、「ふれあいのつどい」が、吉川中学校で開催されました。吉川中学校吹奏楽部によるファンファーレでオープニングし、4年ぶりの開催をお祝いするかのようなどともよいお天気の中で行われました。



光風台小学校5・6年生有志による「南中ソーラン節」の発表(迫力のある力強い演技でした!)

東ときわ台小学校3・4年生有志による「花笠音頭」の発表(掛け声と踊りがぴったり合っていました!)



東地区で収穫された野菜の販売



各学校園所のお楽しみコーナー



吉中生のスマホ教室に参加する森田教育長(LINEでスタンプが使えるようになりました!)



前日と当日の朝早く、たくさんの方が会場準備にご協力くださいました。子どもたちや地域のみなさんのたくさんの笑顔を見ることができ、「ふれあいのつどい」は、大盛況に終わりました。



とよのを知ろう とよのを学ぼう ③ 「とよの未来科」の実践始まる

「科学の心をそだてる取り組み」(ひかり幼稚園)

ある日、ある時たまたま水の入ったらいに木片を入れたら・・・プカプカと浮き、押さえても浮き上がってくる。この様子にあそび心に火がついた5歳児の子どもたち。身近な廃材を持ってきて「これは?」「これは?」とあそび始めました。ちょっとしたきっかけが「ためしてみよう」となりました。身近な環境を通して心が動く豊かな体験を深めていくために、気づきや発見をした時にチャンスと捉え、あそびの保障をしていく。活動内容を柔軟に変更できるように、職員間で連携を図っています。これはほんのひとコマ。砂場ではトイを使って水路を作っていた子どもたちが「水は上にのぼっていくのか?」と思いつき、何度も角度を変えて水を流して試していました。大人が提案したことを考えさせるのではなく、自分たちで気づいた疑問を探求していくからこそ面白さを実感するのだと改めて子どもたちの姿から学びました。



小中合同研修会 ～東能勢小学校・東能勢中学校～

東地区の小中一貫教育校として開校2年目を迎えた東能勢小中学校にて、9月8日小中合同研修会が行われました。今年度は、小・中学校の教員が合同研究プロジェクトチームを編成し、企画・運営を担っています。今回は、東能勢中学校の山野健太教諭が研究授業を行い、関西福祉大学の山口偉一教授をお招きし、指導助言をいただきました。授業は、9年社会科公民分野の「私たちにとっての政治と民主主義」という単元で行われました。

事後研究協議会では、「小中一貫教育で取り組む『学ぶ喜び』と『しなやかな心』の育成」というテーマのもと、参加教員とのやり取りを交えながら講話および協議が行われました。協議では、研究主題の「振り返りの価値化を通じて育む『ことば力と表現力』」について、本日の授業での『振り返り』の在り方や生徒のつぶやきを引き出す秘訣など、活発な意見交換がされました。日々の授業と日常生活との関連を図り、いかにして深い学びへとつなげていくのか、これからは教員の研究は継続していきます。



多くの小・中学校の教員による授業参観の様子